

# 保育者を目指す学生が学ぶ幼児体育の授業実践とその効果

## Practical Teaching Practice and Effects of Physical Education for Young Children Learned by Students Aiming to be Nursery School Teachers

伊藤 照美 Terumi Ito  
(愛知学泉短期大学幼児教育学科)

### 抄 録

本学の幼児教育学科「幼児体育Ⅱ」の授業では、身体表現あそびの中で幼児のリズムダンスやリズム体操を取り入れている。授業の目標やねらいとしては、創造力や表現力を身につけることで、専門的な知識や技術を習得することができ、保育者としての資質の向上を目指すこととした。本稿は、授業内容と学生から授業評価と学生の自己評価のアンケートの結果をまとめたものである。「幼児体育Ⅱ」の授業実践内容を報告し、その効果及び今後の課題を考察する。

### キーワード

保育者 幼児体育 身体表現

### 目 次

- 1 はじめに
- 2 方法
- 3 結果
- 4 考察
- 5 まとめ

## 1 はじめに

本学の幼児体育Ⅱの授業では、身体表現あそびとして、幼児ダンスやリズム体操を中心に、保育者の役割として必要である技術と知識を学び、表現力と指導力を身につけている。グループ活動を中心とした授業展開で、主体性はもちろんのこと、協調性を持ち、「役割分担」をキーワードとした学びを実践的に行っている。特に創作活動では、より多くの学生と意見を交わし、豊かな感情や表現力を高めながら創造力を膨らませ、発表へとつなげている。また、授業の中で身体を動かすことの楽しさを感じると共に、運動を教えるための指導内容と指導方法を身につけることが求められる。本学の幼児教育学科で開講している「幼児体育Ⅱ」では、グループ活動を中心とし、課題曲や選曲に合わせた子どものための体操やダンスを創作し、発表を行っている。また、子どもの発達過程に応じて保育する力、幼児期の特

性に応じて指導する力を身につけるため、実践をふまえて保育者としての資質の向上を目指した。本稿では幼児体育Ⅱの授業内容と創作ダンスの創作から発表までの実践内容を報告し、学生の振り返りから教育効果を読み取り、今後の授業改善に向けての一資料とする。

## 2 方法

### 2.1 授業の全体の構成（シラバス一部参照）

履修者は2年生Aクラス35名、Bクラス38名、Cクラス38名の計111名であった。授業は各クラスで実施した。

実践力を養うために、グループ活動として、ダンスの創作に関する知識や技術を理解し、子どもが楽しめる課題曲等を選曲し、歌うことや踊ることで表現力を高める。また、幼児役・保育者役となり指導法を身につけることを実施した。

授業内容として、前半は各園で使われている幼児体操や幼児ダンスを習得させ、身体表現に関する知識や技術を指導した。4回～8回ではグループ分けをし、こどもが踊りやすい曲を教員が課題曲とし、グループで振り付け等の創作を実施した。後半は、新たにグループ分けをし、グループで選曲・振り付け・隊形などを考え、創作・発表を行った。授業内容は以下のとおりである（表1）。

表1 授業内容・計画

15回	授業内容
1	オリエンテーション・授業のねらい、目的と内容について確認
2	幼児体操①エビカニクス チェケマッチョ 他
3	幼児体操②アンパンマン体操 サンサン体操 他
4	幼児ダンス・体操の創作活動（グループ決め・課題曲）
5	幼児ダンス・体操の創作活動
6	幼児ダンス・体操の創作活動
7	幼児ダンス・体操の創作活動
8	幼児ダンス・体操 発表会
9	幼児ダンス・体操の創作活動（グループ決め・選曲）
10	幼児ダンス・体操の創作活動とんがり体操指導（実技試験課題曲）
11	幼児ダンス・体操の創作活動とんがり体操 予習・復習・練習（実技試験課題曲）
12	幼児ダンス・体操 発表会とんがり体操 予習・復習・練習（実技試験課題曲）
13	実技試験 とんがり体操
14	発表鑑賞（ビデオ）
15	まとめ グループ作品についての評価

## 2.2 授業の目的（シラバス参照）

学修内容は下記の4点とした。

- ①身体運動に関する基本的な知識を得るとともに、各体操を習得する。
- ②保育の中で取り上げるリズム体操やリズムダンスに関する教材を作成するためにいくつかの幼児体操を習得し、必要な知識や技術、指導法を学ぶ。
- ③グループ創作に関する知識や技術を得るとともに創作力を学ぶ。
- ④運動遊びの安全管理や体育指導を身につける。

## 2.3 授業の対象者

授業：幼児体育Ⅱ 前期 必修

期間：2019年4月～8月

2A （月）3限

2B （金）2限

2C （月）1限

対象：幼児教育学科2年生ABCクラス111名

## 2.4 授業の実際（展開）

表2 第6回目幼児ダンス・体操の創作活動の授業

第6回 授業計画	
課題曲 『パプリカ』	
ねらい	○幼児に合った簡単な動きでリズムにのって楽しい踊りを考える。 ○仲間と協力し、踊る楽しさや喜びを分かち合う。
5分	○集合 挨拶 出欠確認
10分	○本日の授業のねらいの説明
10分	○準備体操（アンパンマンたいそう・サンサンたいそう）
55分	○グループに分かれて 創作活動 ・前時に創作したリズムダンスの動きの復習・確認 ・振付を考える ・隊形移動を考える ・グループノートを使用する
10分	○本時の振り返り ○代表が全員の感想等をグループノートへ記録する

## 2.5 授業の評価の方法

2019年11月11日（月）の本学の2年生の授業において、幼児体育Ⅱの授業実践についての研究報告

をするという説明をし、幼児体育Ⅱに関するアンケート調査を実施した。授業評価について質問8項目を質問項目回答の「はい」を3点、「どちらとも言えない」を2点、「いいえ」を1点として各質問項目の得点を算出し、94人のアンケートを回収し分析を行った。（表3）

アンケートの質問項目は以下のとおりである。

表3 幼児体育Ⅱについてのアンケート

前期 幼児体育Ⅱについてのアンケート（幼児体操・パブリカ創作・課題曲創作）
無記名でお願いします。
☆以下の質問についてあてはまる <u>数字</u> を入れてください。〈 <u>1.</u> はい <u>2.</u> どちらとも言えない <u>3.</u> いいえ〉
1.毎回の授業の内容を明確に説明していた。（ ）
2.授業の開始・終了時間を守ろうとしていた。（ ）
3.授業準備はされていた。（ ）
4.教員の声や言葉、話し方は明瞭で聞きやすかった。（ ）
5.学生が質問や意見を伝えるように配慮し、適切に対応していた。（ ）
6.学生の反応を確かめながら授業を進めていた。（ ）
7.私語等への対応により授業に集中できる環境、学びやすい雰囲気が作られていました。（ ）
8.授業に対する教員の熱意は感じられた。（ ）
9.授業内容が十分に身についた。（ ）
10.この授業に刺激を受け、興味が持てた。（ ）
11.総合的に見て、この授業を受けて良かった。（ ）
12.この授業を受講するにあたって、社会人基礎力の能力が身についた。（ ）
13.特に身についた社会人基礎力とは？ ・
☆自由記述
14.この授業の良かったところや改善するところなど自由に記述してください。 ・ ・ ・ ・
*ご協力ありがとうございました。 伊藤照美

13の質問項目の回答には複数可とした

### 3 結果

#### 3.1 授業の評価

##### ①毎回の授業内容を明確に説明していた

表4 毎回の授業の内容を明確に説明していた

		度数	パーセント
有効	はい	85	90.4
	どちらとも	9	9.6
	合計	94	100.0

「毎回の授業内容を明確にしていた」に対する学生の評価は全体の90.4%の高い評価が示された。

##### ②授業の開始・終了時間を守ろうとしていた

表5 授業の開始終了時間を守ろうとしていた

		度数	パーセント
有効	はい	84	89.4
	どちらとも	10	10.6
	合計	94	100.0

「授業の開始・終了時間を守ろうとしていた」に対する学生の評価は全体の89.4%の高い評価が示された。

##### ③授業準備はされていた

表6 授業準備はされていた

		度数	パーセント
有効	はい	71	75.5
	どちらとも	23	24.5
	合計	94	100.0

「授業準備がされていた」に対する学生の評価は全体の75.5%の評価が示された。

##### ④教員の声や言葉、話し方は明瞭で聞きやすかった

表7 教員の声や言葉話し方は明瞭で聞きやすかった

		度数	パーセント
有効	はい	90	95.7
	どちらとも	4	4.3
	合計	94	100.0

「教員の声や言葉、話し方は明瞭で聞きやすかった」に対する学生の評価は全体の95.7%が示された。

##### ⑤学生が質問や意見を伝えるように配慮し適切に対応していた

表8 学生が質問や意見を伝えるように配慮し適切に対応していた

		度数	パーセント
有効	はい	77	81.9
	どちらとも	15	16.0
	いいえ	2	2.1
	合計	94	100.0

「学生が質問や意見を伝えるように配慮し適切に対応していた」に対する学生の評価は全体の81.9%が示された。

## ⑥学生の反応を確かめながら授業を進めていた

表9 学生の反応を確かめながら授業を進めていた

		度数	パーセント
有効	はい	79	84.0
	どちらとも	14	14.9
	いいえ	1	1.1
	合計	94	100.0

「学生の反応を確かめながら授業を進めていた」に対する学生の評価は全体の 84.0%が示された。

## ⑦私語等への対応によりより授業に集中できる環境、学びやすい雰囲気が作られていました

表10 授業に集中できる環境や学びやすい雰囲気が作られていました

		度数	パーセント
有効	はい	75	79.8
	どちらとも	19	20.2
	いいえ	0	0.0
	合計	94	100.0

「授業に集中できる環境、学びやすい雰囲気が作られていました」に対する学生の評価は全体の 79.8%が示された。

## ⑧授業に対する教員の熱意は感じられた。

表11 授業に対する教員の熱意は感じられた

		度数	パーセント
有効	はい	88	93.6
	どちらとも	5	5.3
	いいえ	1	1.1
	合計	94	100.0

「授業に対する教員の熱意は感じられた」に対する学生の評価は全体の 93.6%が示された。

## 3.2 学生の自己評価

## ⑨授業内容が身についた

表12 授業内容が十分に身についた

		度数	パーセント
有効	はい	81	86.2
	どちらとも	11	11.7
	いいえ	2	2.1
	合計	94	100.0

「授業内容が身についた」に対する学生の評価は全体の 86.2%が示された。

## ⑩この授業に刺激をうけ、興味が持てた

表13 この授業に刺激を受け興味が持てた

		度数	パーセント
有効	はい	58	61.7
	どちらとも	30	31.9
	いいえ	6	6.4
	合計	94	100.0

「この授業に刺激をうけ、興味が持てた」に対する

学生の評価は全体の 61.7%が示された。

## ⑪総合的にみて、この授業を受けて良かった

表14 総合的にみてこの授業を受けて良かった

		度数	パーセント
有効	はい	87	92.6
	どちらとも	6	6.4
	いいえ	1	1.1
	合計	94	100.0

「総合的にみて、この授業を受けて良かった」に対する学生の評価は全体の 92.6%が示された。

## ⑫この授業を受講するにあたって、社会人基礎力の能力が身についた

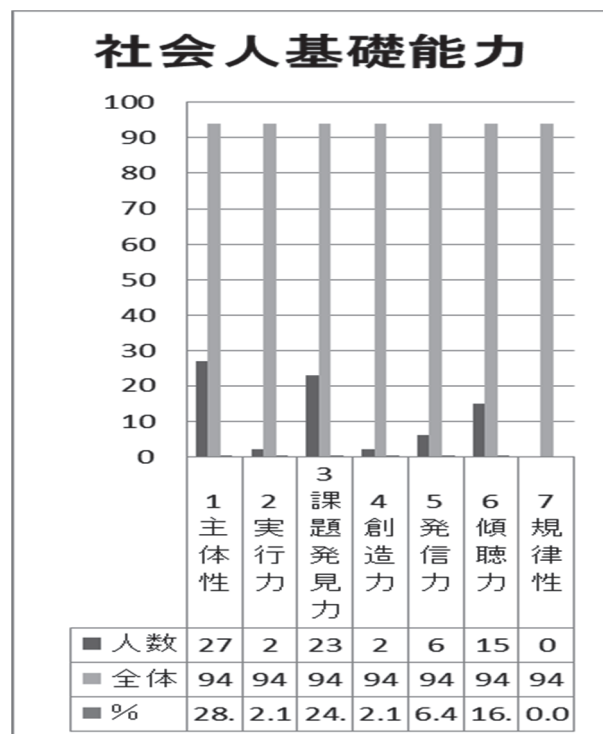
表15 授業を受講するにあたって社会人基礎力の能力が身についた

		度数	パーセント
有効	はい	59	62.8
	どちらとも	32	34.0
	いいえ	3	3.2
	合計	94	100.0

「この授業を受講するにあたって、社会人基礎力の能力が身についた」に対する学生の評価は全体の 62.8%が示された。

## ⑬特に身についた社会人基礎能力とは。

表16 特に身についた社会人基礎能力とは



特に身についた社会人基礎能力について、主体性が 28%、課題発見力が全体の 24%、続いて傾聴力が全体の 16.%を占める結果となった。なお、この

表で示されていない20%については、社会人基礎能力にはないワードが記述されていた。（表16）

#### ⑭授業評価についての自由記述

（参考資料として重複した幾つかの記述を抜粋し、本文のまま記載する）

##### ア）良かった点

- ・楽しく授業を受けることができた。
- ・体の動かすことの楽しさを味わうことができた。
- ・楽しい雰囲気ですべてできて良かった。
- ・いろいろな曲に合ったダンスを考えるのが楽しかった。
- ・みんなで協力してつくりあげる授業内容が多くてとても楽しめる授業でした。
- ・グループを自分たちで決めるのではなく、先生が決めたのが、スムーズに決まって良かった。
- ・自分たちで構成などを考えながら体を動かすことの楽しさを学べた。
- ・創作で、グループで話し合う時間が充分にあったので沢山話し合えた。
- ・普段話さない子とも話す機会ができて、おもしろかった。
- ・グループで活動することが多く、みんなで意見を出すことで、自分だけでは思いつかないアイデアを発見することができたので良かった。
- ・毎回授業の前に社会人基礎力をみんなで出し合ってそれを達成できるような工夫が良かったと思います。
- ・計画して物事を進められた。
- ・好きな曲が選べてよかった。
- ・親しみやすい曲なので創作しやすかった。
- ・パプリカの振りつけが考えやすかった。
- ・いろんな踊り方があって参考になった。
- ・創作で体操を作った時、協力しながら子ども目線で考えることができた。
- ・アンパンマン体操は毎回踊っていたから、音があれば踊れるようになり、実習で困った時に使うことができて良かった。
- ・実習前にアンパンマンマーチやパプリカを覚え、実習で実践できた。
- ・実習で役に立つことが多く責任実習などとても役に立ちました。
- ・創造力と表現力がついた
- ・子どもがどのような動きだったか体を上手く動かせるのか考えることができた。

- ・ダンスを考える力がついた。
- ・ダンスが色々できて、今の子どもたちが何を見ているかを知れて良かったし、それを実際に踊れるようになって良かった。
- ・最初絶対できるようにならないと思っていたとんがり体操を楽しく覚えて出来るようになったから、楽しい環境でできてよかった。
- ・発表があることでやる気が出る。
- ・保育士になった時に、子どもたちに分かりやすいダンス・ふりつけを考えなければならないと思うので、この授業がとてもいい機会になった。
- ・トンガリ体操は少ない時間だけど、時間を十分にとってくれて良かった。
- ・声の大きさ。
- ・授業がなかなか進まない時に先生が気軽に相談に乗ってくれた。
- ・先生が楽しそうに授業をしていて、私もとても楽しかった。
- ・わかりやすい説明だった。

##### イ）改善点

- ・グループ決めをもっと平等にした方がいい。
- ・グループは自分たちで決めたかった。
- ・グループの中でのトラブルが怖い。
- ・CD化されていない曲を使用したかったが、携帯電話を使用禁止だったため、曲をあきらめざる得なかった。
- ・時間に厳しかった。
- ・二回目の課題曲の際に時間がもう少し増やしてほしいかった。
- ・自由曲の時間が少なかった。

## 4 考察

### 4.1 授業の評価について

授業評価について、質問8項目において75%以上の高い評価が示された。また、このように高い評価が認められたのは、自由記述をふまえると幾つかの理由が考えられる。

まず1つ目に、授業内容がわかりやすく伝えられている事が考えられる。つまり、授業内容を丁寧に理解しやすいような様々な工夫をすることで集中力を維持させることである。2つ目に、学生の興味や関心を高めるための授業内容工夫したことである。導入として授業内容を説明し、その関連から本時に発



揮する社会人基礎能力を発表させることで、学習意欲につながる事が考えられる。また、授業内容がマンネリ化しないよう、展開を変えることも意識づけになったと考えられる。3 つ目に、受講しやすい環境を整えたことである。授業をスムーズに進めるためには学生が創作活動しやすい環境づくりをすることが重要であると考えられる。グループワークを中心とした授業内容では、学生同士が意見交換を行いやすい時間を設けるなど、発言しやすい雰囲気作りへの配慮も必要である。このように、授業内容の工夫により、教員の授業への取り組みについては、学生にはある程度の評価が得られたといえる。

#### 4.2 授業の効果について (学生の自己評価) の考察

授業の効果について質問4項目を度数分布で分析したところ、2項目において85%以上の高い評価が示され、2項目においては60%台の結果が示された。このような評価が認められたのは、自由記述を踏まえると、幾つかの理由を考察していく。

「授業内容が身についた」と「総合的にみて、この授業を受けて良かった」について高い評価が示された(表12)(表14)。

第一の理由として、目的や目標を理解した上で、学生が授業に対して熱心に取り組み、向上心を持ち総合的にみて満足していることが考えられる。この時期は教育実習を控えていることから、少しでも保育現場での教材を習得しようとする気持ちが強く、積極的に取り組もうとする意欲が高いことが考えられる。さらに、実習先での責任実習や研究保育を実施しなくてはならないという状況から、学ぼうとする意識が高く、自ら活路を見出していく力が身についたと実感したと考えられる。また、曲に合わせて踊ることが子どもにとって楽しい運動あそびであると共に、運動あそびは、健康を維持し、心身の成長につながる重要な要素であり、学生は授業を通して、理解し習得できたと考えられる。さらに、学生たち自身が楽しみながら、創作活動を行い、子どもの目線に立った子どものためのダンスを創り上げることで達成感が生まれ、充実した授業であったと考えられる。

次に、「この授業に刺激を受け興味が持てた」が61.7%、「この授業を受講するにあたって、社会人基礎力の能力が身についた」が62.8%といった自己評価についての考察である。結果的に評価は低くなく平均以上の評価ではあるが、授業への準備と工夫は

なされていたものの、授業の進行速度、グループノートの使い方などに問題があるのではないかと考えられる。また、社会人基礎能力については、言葉と内容が浸透していない、つまり学生に理解されていないことが考えられる。(表13)(表15)

#### 5 まとめ

授業の実践調査の結果を総合的に見ると、教員の授業への取り組みの意識や授業方法に関して、創作活動のしやすい環境や良い雰囲気の中で授業が行えたことから、学生には一定の評価が得られた。ダンスを創作するにあたり、初めは意見を出し合うことがなく、互いに遠慮する様子がうかがえた。しかし、時間が経つにつれ、グループ内での意見交換がなされ、スムーズに創作が行われるようになった。また、自由記述から読み取れることは、創造力や協調性と表現力においてのスキルアップが見られ、自信につながったと考えられる。改善点として、社会人基礎能力への意識が低いことから、社会人基礎能力の目標を明確に伝える必要がある。また、グループ決めについては、「学生たちで決めたかった」といった意見も多くあり、今後の課題として検討する必要がある。

#### 参考文献

- 高田佳孝・山中愛美 「「幼児体育」において学生による模擬授業の検討」 夙川学院短期大学教育実践研究紀第10号 2016 29-38
- 田畑忍 「中間アンケートにおける質問項目・質問形式に関する一考察」 『論叢』玉川大学教育学部紀要 2013 133-146
- 梅垣明美・晴山紫恵子 「体育における保育者養成プログラムの検討」 浅井学園大学短期大学部研究 44 2006 55-64
- 澤聡美 「楽しい体育授業の満足度に影響する要因」 富山大学人間発達科学部紀要 11 巻(3) 2017 31-37
- 四條畷学園短期大学 FD 委員会 「授業評価アンケート報告書—よりよい授業への改善を目指して—」 四條畷学園短期大学授業評価報告書 2017
- 原田大樹 「「保育内容(言葉)」のアクティブラーニング実践」 福岡女学院大学紀要 人間関係学部編 (18) 2017 39-45
- 乾多慶士・中村泰介 「本学幼児教育学科における「体育(運動あそび)」の実践報」 園田学園女子大学紀要第52号 2018 137-142
- 中島卓裕・古川洋子 「保育の現場における多職種協働の実現に向けて・保育カウンセラーの活動についての実践報告」 愛知学泉大学 紀要第1巻第2号 2019 35-39

(原稿受理年月日: 2020年1月15日)